

女性への暴力「NO！」発信

交流サイト（SNS）などを積極的に活用する「Z世代」の若者たちが「女性に対する暴力撤廃の国際デー」の25日、栄の繁華街でゴミ拾いをしながら、女性への連帯をアピールした。

ゴミを拾ったのは、県内の大学に通う男女13人。環境問題などに取り組む一般社団法人「サステイナブル推進協会NAMI MAT I」の東海支部が中心となり、日本財団のプロジェクトによる協賛を受けて実施した。

より多くのZ世代の共感を得ようと、SNS映えも意識。ゴミ袋は「ダサイ」とし、代わりにコーヒードロップが入っていた麻袋を使う。

Z世代「映える」ゴミ拾い



スマホを片手に「みを拾うZ世代の若者たち」栄で

栄 SNS意識、麻袋でおしゃれに

顔や手にはペイントを施し、カラフルな衣装で取り組むことも意識した。

街に落ちているゴミも、おしゃれに撮影し、SNSに投稿。互いの様子も撮影しながら、たばこの吸い殻やペットボトルなどを拾い上げていった。

企画の中心となった愛知学院大2年玉川由理子さん(20)は「連帯をアピールすることで、暴力被害を受けている女性に1人じゃないと伝えられた。自分たちが楽しそうに活動することで、多くの同世代に参加してもらいたい」と語った。

(高橋信)